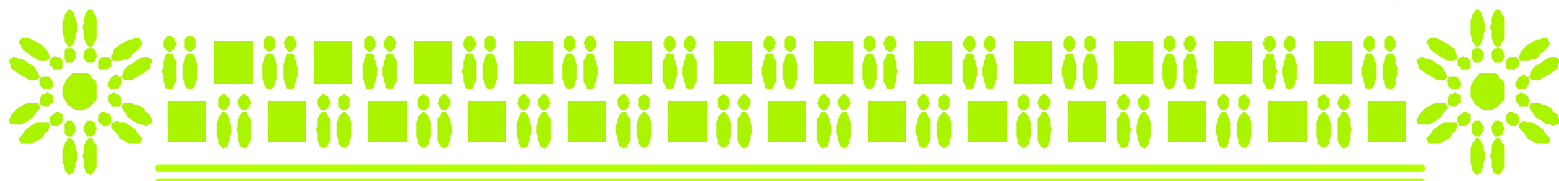
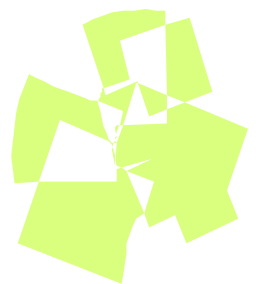


第 56 回

日本脈管学会総会が

10 月 29 日(木)～31 日(土) に
虎ノ門ヒルズフォーラムにて開催
されます。

当院からは、
血管外科センター長 今井 崇裕 医師が
学術発表を致しますのでご紹介し
ます。





第56回 日本脈管学会総会

The 56th Annual Meeting of Japanese College of Angiology

脈管を守る — 医学・医療と社会の連携 —

演題募集期間 (予定)

2015年4月23日(木)～6月12日(金)

2015年

10月29日(木) ▶ 31日(土)

会場

虎ノ門ヒルズフォーラム

〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3
虎ノ門ヒルズ森タワー4階5階

会長

磯部 光章

(東京医科歯科大学 循環器内科)

副会長

井上 芳徳

(東京医科歯科大学 血管外科)

<http://jca56.umin.jp>

運営事務局

株式会社ICSコンベンションデザイン内

〒101-8449 東京都千代田区猿樂町1-5-18

Tel: 03-3219-3541 Fax: 03-3219-3577

E-mail: jca56@ics-inc.co.jp

第56回日本脈管学会総会 プログラム (予定)

西丸記念講演	システム医学としての循環器病学 永井 良三 (自治医科大学 学長)
会長講演	温故知新：高安病の今、昔 磯部 光章 (東京医科歯科大学 循環器内科)
特別講演	TASC Updated 重松 宏 (国際医療福祉大学 臨床医学研究センター) William R. Hiatt (Division of Cardiology, University of Colorado School of Medicine) Lars Norgren (Department of Surgery, Örebro University)
	脳血管内治療と医療連携 根本 繁 (東京医科歯科大学 血管内治療科)
招請講演	Surgical Revascularization of CLI in the Era of Strong Endovascular Development Anders Almqvist (Department of Vascular Surgery, Helsinki University Hospital)
教育講演	病態が分かると脈管学はもっと面白い 太田 敬 (愛知医科大学 大雄会第一病院 血管外科)
	脈管を守るための血管機能検査 山科 章 (東京医科大学 循環器内科)
	肢の痛み・むくみ：病歴と身体所見の取り方 古森 公浩 (名古屋大学大学院 血管外科)
	静脈血栓塞栓症に対するカテーテル治療 田邊 康宏 (聖マリアンナ医科大学 循環器内科)
シンポジウム	大型血管炎の診断・治療の最前線 脈管疾患制圧に向けた抗血栓治療の役割 跛行肢に対する治療選択 — どの症例にどの戦略が best practice か ? 大動脈瘤ステントグラフトの進歩 脈管疾患の画像診断の進歩 血管の再生治療の現状と展望 Vascular team の現状 コメディカルにとつての脈管学とは ?
学術委員会企画 シンポジウム	マルファン症候群への多面的アプローチ (仮)
ワーク ショップ	CLI：フットケアによる予防と治療 下肢静脈瘤 CTEPH と PTE の治療をめぐる

そのほか、脈管専門医教育セッション、症例検討、Japanese College of Angiology Award (JCAA)、共催シンポジウム (JCAC シンポジウム)、共催セミナーなどを予定しています。

シンポジウム S-08 コメディカルにとっての脈管学とは？

患者を後押しする弾性ストッキングの選択基準とは？

-コメディカルに求められるもの-

西の京病院 血管外科 今井崇裕

【はじめに】弾性ストッキングは脈管疾患の診療に必須の医療器具である。近年、下肢静脈瘤の血管内焼灼術が保険適応になったことで、弾性ストッキングを処方する機会が増えた。弾性ストッキングを処方する際、医師は診察時間の制約から弾性ストッキングの解説をコメディカルに依頼しているのが現状である。

【目的】数ある弾性ストッキング中から、患者がその弾性ストッキングの選択に踏み切ったきっかけを把握することで、実際の診療に活かさないかを調査した。

【対象】2015年2月から6月に当科で弾性ストッキングを処方した下肢静脈瘤患者71名。男性21例、女性50例、平均年齢は 65.6 ± 9.6 歳。

【方法】診察後、コメディカルに弾性ストッキングの処方に係る下肢周囲径の計測、タイプの選択、履き方の練習、各社弾性ストッキングの違いなどの説明を受けてもらい、実際の購入直後にその弾性ストッキングの選択に踏み切ったきっかけについてアンケートを取った。アンケートの内容は選択基準を6つに分け、①デザイン性 ②値段 ③履きやすさ ④肌触り ⑤担当者の推薦 ⑥ストッキングメーカーの知名度として、それぞれ5段階で評価してもらった。

【結果】それぞれの平均値は、①デザイン性2.7点 ②値段2.9点 ③履きやすさ3.1点 ④肌触り3.3点 ⑤担当者の推薦3.8点 ⑥ストッキングメーカーの知名度2.1点であった。【考察】担当者の推薦が点数高く、患者に弾性ストッキングを説明することは直接購入のきっかけに繋がることが予想され、術後の弾性ストッキングのコンプライアンスに影響すると思われる。

【結語】患者が弾性ストッキングの選択基準を調査し、その結果を検討した。コメディカルの的確な専門知識の提供が重要と思われた。